

未来クラブ創立30周年記念講演

日本山林の現状と復活 オオカミ導入

日時▶平成24年9月26日(水) 午後6時

場所▶川越氷川会館 入場無料

講師▶一般社団法人 日本オオカミ協会 会長 丸山直樹氏



【丸山直樹氏プロフィール】

1943年新潟県出身。1966年 東京農工大学農学部 林学科卒業。
新潟県林業試験場を経て、1968年東京農工大学自然保護講座助手、
以来一貫して野生動物保護の研究に従事。助教授、教授を経て、現
在東京農工大学名誉教授。専門は自然保護文化論、野生動物保護学。
シカの生態、保護、管理を研究するうちに、天敵である野生のオオ
カミに興味を抱き1993年に「日本オオカミ協会」を設立、会長に就任。

【主な著書】

「オオカミを放つ ― 森・動物・人の良い関係を求めて」(白水社)
「地球はだれのもの?」(岩波書店) など多数

協会機関紙 フォレスト・コール Forest Call No.18 Apr,2012より (岩堀弘明記)

『明治政府は、それ以前のオオカミを崇拜する神道的価値を否定し、近代化にそぐわない猛獣と位置づけ学校教育、社会教育を通じて反オオカミの啓発政策を展開しました。』

野生動物を含む自然を、人間にとって有益なもの、害になるものに分けて考える「益害論」は伝統的なものですが、正しい考え方ではありません。この思想は人間中心主義のエゴ的な自然観によるもので、自然あっての人間、自然に抱かれ生かされている人間という生態学的自然観、生物多様性を重視する自然観とは相容れません。

捕食動物がない日本の山林には、現在200万頭のシカが生息しています。1km²当たり2~3頭の生息数が生態系維持から妥当ですが、屋久島には1km²当たり30頭のシカがおり、サルの群をシカが追いかける姿が良くみられます。今年尾瀬を訪ねた人は、シカに水芭蕉の若芽をたべられてひどい有様になっているのを見て、心配する人が目立つようになりました。

シカのような強力な消化能力を持った植食動物は、毒性をもつ少数の植物以外、多くの植物を食べ尽くすまで増え続けます。森林生態系破壊の始まりです。

「森は海の恋人」と言われますが、日本の沿岸生態系も壊れ漁獲量が減少しています。

シカによる過度の採食で植生がなくなり、裸地になった山の斜面から土砂が流れだし、山林崩壊が始まっています。土砂は谷を埋めイワナなどの溪流性魚類から住処を奪います。ダムには土砂がたまり、機能を著しくそこないつつあります』

これも日本が早急に解決しなければならない課題です。

主催▶川越未来クラブ

事務局▶川越商工会議所内

連絡先▶TEL 049-229-1840